



皮膚がん (ひふがん)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

皮膚がん（腫瘍）について

皮膚は（1）表皮（2）真皮（3）皮下組織（4）皮膚付属器に分けることができます。そしてそれらをつくっている細胞であればどの細胞から生まれるがんもすべて皮膚がんと呼ばれます。このため、皮膚がんといってもその種類は非常に多いということがいえます。

ところが、このたくさんの種類の皮膚がんの患者数すべてを足しても皮膚がんの患者数は少なく、日本人がかかるがんのうち、皮膚がんの患者数は上位10位にも入りません。

また、皮膚がんには人種によるかかりやすさの差があり、白人では日光（紫外線）によくあたる部位には悪性黒色腫、有棘（ゆうきょく）細胞がん、基底細胞がんという3大皮膚がんと呼ばれるものができやすく、決して少ないがんではありません。

このため皮膚がんは希少がんであるといっても、日本人にとっては希少がんであるという皮膚がん、人種に関わらず世界中みても希少がんという、2つの側面をもっています。

主な皮膚がんの系統別分類を示します。

上皮系

基底細胞がん ・ 有棘細胞がん ・ 乳房外パジェット病 ・ メルケル細胞がん
汗腺がん ・ 脂腺がん ・ 毛包がん

悪性黒色腫

間葉系

隆起性皮膚線維肉腫 ・ 血管肉腫
その他の肉腫（類上皮肉腫、平滑筋肉腫、脂肪肉腫、未分化多形細胞肉腫など）

上皮系細胞由来の皮膚がんについて

この中で基底細胞がんは日本人の皮膚がんの中で最も多いもので希少がんには含まれません。

